

主催：福井県

入場無料

映画上映会

熊世の遺言



国立ハンセン病療養所栗生楽泉園で生活する3人の高齢者の心の葛藤や園内での活動をありのままに描いたドキュメンタリー。



故郷を離れ、楽泉園にきた浅井あいさん。金沢への里帰りで見目の不自由な少年と出会う。以来、2人の文通が始まった。それから約半年後、少年はあいさんに会うために楽泉園に向かう。あいさんの胸に期待と不安が入り交じる。



ハンセン病の体験を執筆したり、国賠訴訟で活躍してきた苜雄二さん。ハンセン病問題を社会に訴えかける活動をしてきた彼だが、帰りたいくても帰れない場所がある。発病した7歳まで暮らしていた東京の下町、足立区。苜さんは、自分の原点を見つめるために故郷へと向かった。裁判の勝訴から約1年、彼らの目に映る外の社会には、変化があったのだろうか。



50年ほど前から絵を描いている鈴木時治さん。彼の絵に描かれている少女は、かつてこの療養所で自ら命を絶った妹がモチーフだ。視力が弱くなった今でも、彼は毎日絵を描き続ける。

入場者全員に
粗品プレゼント！

10月31日（金）13：30～14：40（開場13：00）
公立若狭高等看護学院 3階 大教室